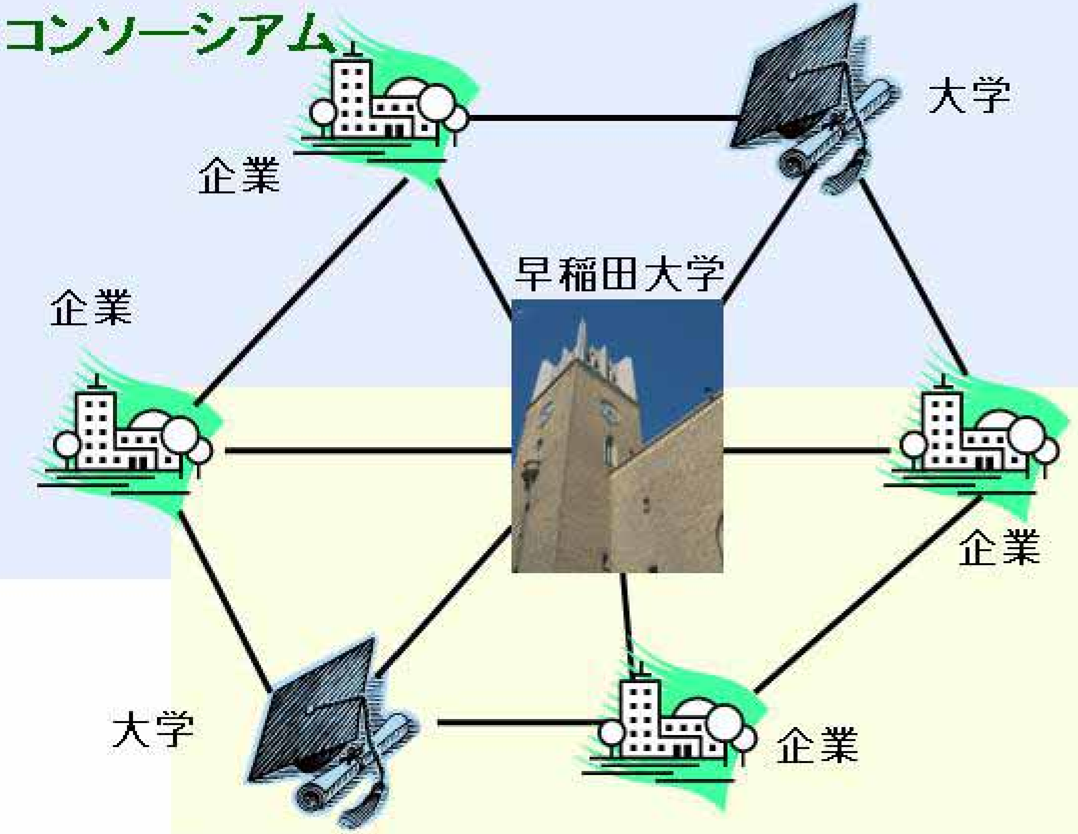
3-6. コンソーシアム型共同研究の試み

■ スケールの大きな共同研究の必要性

日本の産業発展を実現させるには
大学と企業の個別連携だけでは実現が難しい
→スケールの大きな共同研究が必要不可欠



■ コンソーシアム型共同研究

複数の大学や企業を巻き込んだ**コンソーシアム型共同研究**への取り組みが必要

Copyright© 2005 Waseda University

【例1】1ビットオーディオコンソーシアムの設立

■ 高速標本化1ビット信号処理

・山崎芳男・早稲田大学教授による研究
・音源収録／再生において音質劣化が少なく高効率データ転送にも好適
・次世代デジタルオーディオ技術として高い評価

新技術を広く世に知らしめるため産学協同による
「1ビットオーディオコンソーシアム」を2001年2月に設立

《概要》

・早稲田大学・シャープ・パイオニアが共同で運営
・研究開発の成果発表などを定期的に行う（2005年6月までに10回の総会を開催）
・2005年6月現在、一般会員31、学校法人会員3などで構成

【URL】http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp/1bitcons/

Copyright© 2005 Waseda University

【例2】音声認識実用化に向けた共同研究

・早稲田大学が中心となり、音声技術の実用化に向けて大規模な産学共同研究を企画

・日立製作所、三菱電機、東芝、NEC、旭化成、沖電気、ソニーなど、国内有力企業の研究者を集めて、研究所（音声技術実用化研究所）を2005年4月に設立

・東京工業大学の音声・自然言語処理関係研究者との連携

・（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の「音声技術実用化推進専門委員会」と連携

・NEDO「音声認識技術実用化に向けた先導研究」として受託予定

Copyright© 2005 Waseda University

ご清聴ありがとうございました
早稲田大学
http://www.waseda.jp/